

大和市子ども読書活動推進会議 会議記録

会議名	令和5年度 第2回 大和市子ども読書活動推進会議	
開催日時	令和5年8月31日(金)15時45分～17時	
開催場所	文化創造拠点シリウス 610大会議室	
出席状況	参加委員	<推進会議委員> 今宮 智子、伊禮 利奈、矢嶋 千草、大川 伸子、古木 幸一、長嶋 智美（順不同・敬称略）
	欠席委員	山口 真由子、吉野 敦子、渡辺 康子(敬称略)
	市側出席者	<事務局職員>（2名）
	指定管理者	<図書館スタッフ>（3名）
	傍聴人人数	0名
公開非公開の状況	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開	
審議又は検討経過及び結果	<p>1. 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の出席状況の確認(9名中6名出席) ・配布資料確認 <p>2 議事</p> <p>(1) 子ども読書よむ読むプラン実施計画進捗点検について(資料1)</p> <p>◎事務局より、資料1を基に、子ども読書よむ読むプラン実施計画進捗点検について説明。</p> <p>会長:それでは前回の会議で配布された資料2-2を見ながら進捗点検を進める。</p> <p>図書館:今回決定した毎年度の目標数値は次年度以降も見直しを行うのか。</p> <p>事務局:次年度以降も目標数値を含めた見直しは行う。</p> <p>図書館:例えば「4.親子で調べる学習の推進」の目標値は今年度以降毎年7,000作品となっているが、令和4年度時点で7,129作品と目標を上回っている。次年度以降動きを見て調整していくということか。</p> <p>委員:親子で調べる学習については、令和4年度時点で小学生のほぼ全員が提出しており、右肩上がりの増加は望めない。逆に読書感想文コンクールは全員が取り組んでいるわけではないので、調べる学習については現状の数値を目標にしてもいいかもしれない。</p> <p>会長:私の知る限り他企業とタイアップした大々的なイベントは旧図書館の頃を含めても初めてだと思うが、小田急電鉄とのコラボイベントにはどの程度のPR効果があったのか。</p> <p>図書館:3つの図書館と最寄り駅のスタンプを集めると記念品をもらえるイベントを行った。記念品の引換数なので正確な参加者数というわけではないが、200名を超える人数が全施設を回ったことになる。普段の利用者層とは異なる電車好きの方も見られ、図書館に触れることの無かった方へ図書館を紹介する機会になったと思う。</p> <p>このイベントを呼び水に、中央林間図書館では東急とのコラボレーションが8月にスタートし、他にも地元企業とのコラボレーションも実施している。</p>	

会長：駅を利用する度に大きなポスターが目に入り、普段図書館に意識が行かない人の目にも入る良い施策だったと思う。

図書館：今後も、地元の企業とのコラボに限らず、いろんな形で図書館に注目してもらえる取組を考えていきたい。

委員：「14.学校での読み聞かせ、朝読書等の実施」について、「朝読書の時間」とあるが、昼読書を実施している学校も前からあるので、概要も含めて「朝読書・昼読書」と変えた方がよい。

事務局：「朝読書・昼読書」のように並列した記載に変更する。

会長：新型コロナ感染症に係る規制が減った中でブックスタートと図書館のおはなし会の最近の状況について教えてほしい。

図書館：ブックスタートについて、去年は読み聞かせは実施できなかったが、令和5年4月から、おはなし会形式の読み聞かせボランティア活動を行っている。今後、前の形に戻せるように調整を進めている。

図書館のおはなし会については、新型コロナが5類に移行してからは人数制限をしていないので、今年度から参加人数は増えていくと考える。

会長：学習センターやコミセン、公共施設、子育て支援センターなどのおはなし会も人数制限、時間制限もなくなったと情報があり、子連れの利用者が増えている等の話もある。地域で子育て支援活動への影響はあったか

委員：南林間で運営している「でごいち親子文庫」の状況は、新型コロナの影響で利用者の足が遠のいていた時期が続いていたが、PRを続けて安心して利用できる状況が伝わり、少しずつではあるが利用者は増えてきている。

会長：ブックリストについてはどれくらいの頻度で発行しているのか

図書館：1年に1回テーマを設定して、夏休み前に発行している。新図書館になってからは7冊目になった。

会長：うちドックが目を引きかわいらしいブックリストなので、うまくPRしてほしい。図書館にだけ置いておくのはもったいないのでぜひ広く配布してほしい。

事務局：欠席の吉野委員から、まんが日本の歴史が読書推進に役立つと思うという意見があったが、図書館の団体貸出にもラインナップはあるのか。

図書館：蔵書はしている。学校貸出の場合は団体書庫だけでなく、一般書架からも借りられるので、団体書庫に無い場合でも貸し出せる。

委員：まんが日本の歴史は学校図書館にも揃っているのですが、学校貸出で借りたことは無かった。学校貸出は使いやすくなったが、やはり2週間前に申し込まなければならない縛りのハードルが高い。

会長：「13.ゲーム形式で読書を楽しめる企画の実施」について、この夏休みの取組はどうだったか。

図書館：名探偵うちドックと図書館のなぞ解きを行い、ゲーム感覚で読書に親しんでもらった。まだ確定数では無いが、300名以上の参加があった。

会長：規制の解除の影響なのか、各所のお祭りも爆発的な人出だと聞いている。

「方策(4)中学生・高校生の読書の関心を高める取組の推進」について、内容の補足をしてほしい。

図書館：電子図書館に関しては、昨年11月の運用の変更と蔵書強化から、利用が伸びている。学校との連携も進めていく予定と聞いているので、幅広い利用が見込めると考えているが、電子書籍は子ども向けのものが少なく、提供数自体も足りない。もっと増やしてほしいというアクションは出版社にしていきたい。

市立図書館では漫画を非常に幅広く取り揃えていて、漫画から読書に繋がることもあると思う。視察の方も漫画を読んでいる利用者を興味深く見ている様子を見かける。

動画も読書に限らず、社会に繋がりを持つきっかけの1つとして、子どもたちがよく利用していることは感じているので、映像に図書館としてどうアプローチするかを考えている。子ども向けというわけではないが、12月に映像のワークショップを予定しており、うまくいけば継続していきたいと考えている。図書館スタッフも機器の扱いを苦手とする人もいるので、スタッフの勉強を兼ねている面もある。

ビブリオバトルも一日図書館員の中で引き続き実施している。

委員：学校現場では新聞は電子媒体と紙媒体はどちらがいいかと問うこともあるが、図書館に電子新聞は置いているのか。

図書館：中央林間図書館は電子新聞のみを置いている。開館当初は紙媒体を求める要望もあったが、今は定着してきている。他自治体では、新聞の紙面の様な大きい液晶を導入している施設もあるので、予算の問題もあるが、シリウスの先進サービスとしてそういったものも検討する必要がある。

会長：読書活動推進の一分野としての電子書籍だと考えたい。小さい子どもの絵本が電子書籍になってしまうと悲しく思う。インクの匂いや紙をめくる楽しさもあるので、電子書籍だけにするのではなく、紙の本と同時に読書推進活動を進めていけたらいいと感じている。

施策目標2の「方策(1)図書館等の読書活動の充実」について図書館に補足説明をお願いします。

図書館：「21.子ども図書館の蔵書の充実」について、今年は大幅な予算はついていないが、他の蔵書との適切な配分を考えつつ、充実を図りたい。

「22.多様な背景を持つ子どもへの読書支援」について、LLブックなど障がいのある方向けの色々な本のリスト化や展示もしている。必要な方に情報が届かない、使ってもらえないことに、どの図書館でも悩んでいるので、どうすれば使ってもらえるのかを検討している。

「24.図書館見学ツアー等の実施」について、シリウス夜の探検ツアーは人気があり、すぐに定員を越えて抽選となった。

会長：「方策(2)こどもがいる場所にある本の魅力向上」について、図書館から補足をお願いします。

図書館：団体貸出の利用促進については、図書館まで取りに来てもらうことが一つのネックとなっている。図書館はPRが苦手な面もあるので、本当に団体貸出を必要とする団体へ情報が届くよう、周知に取り組んでいきたい。

団体向けのリサイクルフェアは図書館では不要となった本を団体向けに提供しており、多くの団体の参加があるが、用意した本が無くなるようなことはない。時間が限定されているので、参加が難しい団体もあるのではないかと考えている。しかし、土日になると教員の参加が難しいので、適切な形の模索はしていきたい。保育園の参加が多いので絵本の需要が多いが、需要に見合うほどリサイクルに回る絵本が無い。提供できるもの自体が少ない状況なので、右肩上がり配布冊数が増えるわけではない。

小学校の参加が少ないが、学校図書館が充実しているという理由もあるのかもしれない。学校でリサイクル本を利用するとしたら学級文庫くらいか。

委員：学級文庫としてクラスに置いてもらうこともあるが、学校図書館の除籍本も学級文庫に行く。しかし、古い本は子どもが手に取らないので、飾りにしかなっていないのが実状。学級文庫に図書館の本を1ヶ月置いてもらうといった試みもしている。子どもたちは綺麗な本しか手に取らないので工夫が必要。

会長：絵本は流行り廃りが少ないので、除籍されるのは物質的に古くなったものばかりになるのは仕方ない面もあると思う。

図書館：最近絵本の蔵書を増やす方向だったので、絵本は本当にボロボロになるまで除籍されない状況があった。他にも、実用書は情報が古く、間違った知識を持ってしまうことも考えられる。リサイクル本活用の難しいところだと思う。

会長：団体貸出の利用を増やしたいと昔から考えている。まちなか絵本スポットの現況はどうか。

事務局：明日発行の広報やまどに協力事業者募集の記事を掲載する。先日、初めて入替に行ったが、施設の方からは概ね好評で継続の希望ももらっている。セットの絵本についても、ある程度の破損はあったが、紛失は無かった。

図書館：まちなか絵本スポットには小田急電鉄から駅の授乳室に置きたいとアプローチがあった。諸問題で実現はしなかったが、ロマンスカーに置きたいという提案もあった。各所に興味をもってもらっている試みなので継続していきたい。

会長：絵本スポットの紹介をした際に、個人の商業施設では自分の管理で行っているので利用しやすいが、テナントに入っている事業者はビルの管理者に管理責任を負えないと言われてしまって利用しにくいと聞いた。管理面では難しいと思うが、子どもが集まる場所にはもっと置ければ良いと思う。

図書館：故意や重大な過失による汚破損や紛失の場合は弁償を求める運用にしているが、厳密な運用に関しては相談をしてもらえれば許可できる場合もあると思う。相談の前段階で諦めてしまうといった声は図書館まではなかなか届かないので、現場の情報の共有は参考になる。

会長：ここにある絵本はみんなのものだから、壊してはいけない、公共のものを持って帰ってはいけない、古本屋に売ってはいけない、という当たり前のことを学ぶ場としても広げていければ良いと思うので、声かけはまた行っていきたいと思う。

委員：「31. 学校図書館蔵書の充実」について、ここで言っても仕方ないとは思いますが、図書購入予算がどんどん下がっていて、ピーク時に比べると何十万と下がっており、厳しい状況にある。

図書館：大和市の学校図書館が充実していて驚いたといった話をよく聞いていたので、予算が厳しい中でも子どもの読書環境は守ってほしいと思う。図書館も協力していけることを考えていきたい。

会長：最後の「施策目標3 こどもの読書活動をみんなで支える」について、ボランティアの養成講座講師を今年受けて感じたのは、学校で読み聞かせをするという方より、地域で読み聞かせをしたいという方が増えていたように感じた。学校で読み聞かせが行えなかった時期の影響もあると思うが、各学校で、学校のカラーを活かした朝読書や読み聞かせボランティアの活動が受け継がれているのではないかと思う。各学校で読み聞かせの文化が根付いていけば目標達成に近づいているのではないかと思う。

全ての方策について、点検が終了した。事務局が本日の会議の意見を元に最終案を作成することになる。最後に付け加えることがあるか。

委員：今回の点検について、一生懸命に頑張っていることは伝わってくる。

この会議の姿勢として、実態を捉えることが目的なのか、ある程度の方向性を検討するべきなのかがはっきりしていない。例えば、ブックスタートの実施について、全ての4か月児に100%渡していることを大事だと考えるのか、本当にその年齢に適した絵本を渡しているかどうかを検討するべきなのか。セカンドブックについても、受け取りに来る人数が41%とあって、魅力的な絵本が選ばれているのか、みんなが持っている絵本を渡そうとしていないか、その検討はしなくて良いのか。「31. 学校図書館蔵書の充実」についても年間の購入回数が6回という数字はわかるが、予算がどのくらい、こういった形でつくのか、予算は増えているのか、減っているのか、計画最終年度に向けて、どのように進めていくのか、そういった具体的な目標がわかりづらいように思う。

読書推進計画の点検は来年度、再来年度と、読書活動推進の予算を獲得するためのものとして理解しているので、実施している事業が市民のためになっているのかどうか、大きな図書館ができたことは評価されたが、それを継続的に行って裾野を広げていくにはどうしたらいいかをしっかりと検討すべきなのに、表面上の数字を追っていただけでは足りない面もあるのではないかと思う。

理事者が読書活動推進についてどのくらい詳しいかによっても違ってくるが、どういったことを実績としてアピールしていくかが大事になる。講座への参加人数がどうだったということも大事だと思うが、市民の中に読書活動の持続が定着しているかを調べていく必要があると思う。

図書館：ブックスタートの本は NPO ブックスタートという団体の30冊のリストから選んでいる。その中から、図書館スタッフで半分に絞った上で、市内の保育園に持って行き、実際に園児に読み聞かせをしてもらった後に、アンケートを取り、5冊を選定している。

委員：そのような細かい事情をこの表に反映できればいい。ここに出ているのは数字的なものだけなので、結果の下に補足欄を作って、ブックスタートの本はこうやって選択しているといった情報が載っているとわかりやすい。一生懸命にやっていることをもっと文字で表現してもいいのではないかな。

図書館：表への落とし込みは事務局の作業になるので、大変だとは思っていいことではないように思う。

この場の点検は実施計画をきちんと見守って、現場と意見をすり合わせる場だと思っている。状況を点数化していくことも、中身をもう少し深堀していくことも大事だ。ブックスタートの選書の方法などを、説明して共有できる場であることが有意義だと思う。

会長：点検評価の仕方は、第1回の計画を作る時から議論していることでもある。事務局にはこういった意見を参考にしてもらいつつ、最終案を作成してもらいたい。最終案の確認については、私に一任という形でよいか。

反対意見無し。

(2)その他

◎事務局より、第1回やまと絵本大賞の印刷状況の報告、第3回会議は2月下旬に開催予定であることを説明。

3. 閉会

以上